

会議名称	平成25年度第3回杉並区地域自立支援協議会
日時	平成26年3月20日(火) 14:00~16:30
場所	第3・4委員会室
<p><出席者> 高山由美子委員(会長) 神作彩子委員(副会長) 小笠原みのり委員、金子めぐみ委員(支援者) 大和田耕平委員、小野寺肇委員、竹嶋美歩委員、岡安容子委員、望月俊彦委員、清水豪委員、田中直樹委員、鈴木正道委員、春山陽子委員、甲田潔委員、平田愛子委員、下田一紀委員、加藤恵愛委員</p> <p><幹事> 保健福祉部障害者施策課長：武井浩司 保健福祉部障害者生活支援課長：福原善之 保健福祉部高井戸事務所担当課長山崎佳子</p> <p><事務局> 障害者施策課 直井誠、本館睦美、山田隆史 障害者生活支援課 長谷川比呂子、星野健</p> <p><オブザーバー> 永田直子、田中澄子</p> <p><欠席> 菊地英治委員、久保田美幸委員</p>	
<p>【次第】</p> <p>第3回杉並区地域自立支援協議会(第4期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 報告と討議 <ol style="list-style-type: none"> (1) シンポジウム (2) 地域移行促進部会 (3) 相談支援部会 4 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次年度の本会の開催方法について (2) 専門部会の今後のあり方について 5 区からの報告事項と質疑 6 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回日程の確認 等 	
<p>【配布資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> 資料1 シンポジウムアンケート集計 資料2 地域移行促進部会報告 資料3 相談支援部会報告(別紙1、2含む) 資料4 サービス等利用計画作成の進捗状況等について 	

資料5 次年度スケジュールについて
資料6 次年度以降の本会の開催方法等について
別冊資料 区からの報告資料(別冊)

参考 国通知(260227)
当日配布 資料1-2 シンポジウム報告
資料7 今後の専門部会のあり方について

【内容】

1 開会(障害者施策課長)

省略

2 会長挨拶

省略

3 報告と討議

(1) シンポジウム実施報告(資料1、1-2)

- ・当日の参加者は関係者含めて81名。自立支援協議会の取り組み説明を始めにしたことで、協議会自体の理解につながった。講演、パネルディスカッションともに好評で、本人参加のシンポジウムというスタイルを続けることは有効であった。(事務局報告)
- ・本校の生徒が持つ医療的ケアの課題を地域の方に知ってもらえてよかった。実行委員会と本会とで相談しながら内容を作っていければよかった。
- ・幅の広いテーマであった。グループホームでは医療行為など大きな課題となっている。知りたいこともあったし、もっと知りたいという参加者もいた。密度の濃い時間であった。
- ・自立支援協議会のシンポジウムは{障害者の生活をどう支えていくのか}ということが一番のテーマであると考えられる。本人に伝えていただくということが大切である。自立支援協議会の発信としてのシンポジウムのあり方を考えていきたい。
- ・障害当事者の生の声が聞けるのは貴重な機会である。たくさんの区民に聞いてもらいたい。
- ・講師が重度の障害のある人が地域で生活していくことをストレートに伝えてくれた。家族・支援者に共感と思いを発することができたと思う。
- ・たくさんの方に来てもらえて有意義だった。協議会本会の中でテーマの確認をしながら作っていければよいと思う。

(2) 地域移行促進部会報告(資料2-1~3参照)

- ・地域の実態を知るためのアンケート調査をもとに議論を行った。地域定着のニーズを把握するためではなく意識調査のためのアンケートとした。結果は資料2-3のとおり。意見交換の中で出た、「継続的な見守りの期待」「自分でSOSを出せない知的障害者には使いにくい」「一般相談支援事業所が少ない」などから利用拡大のために計画相談とセットで展開していくことを提案する。

<質問・意見>

- Q 地域定着の対象者としては「相談が重い人」の中でひとり暮らしで名簿登録していることがサービスの基本と考える。一人の相談者で50~100人というイメージだが緊急時対応としてどういう場面を想定しているのか?
- A ボリュームの大きい支援は地域定着では難しいという想定である。提案内容のとおり計画相談との組み合わせで対応していくことで考えている。「緊急時」については細かいところまで論議できていない。
- Q 登録した人が必要な時に必要なサービスが受けられる状態を作ることを前提に検討してほしい。2~3000人に

対応できる制度にしてほしい。

A この制度ができた意味から考えると、登録者の見守り的な制度と理解している。地域生活のために地域定着という制度が使えるということを案内しながら様々な相談につないでいけるようないろいろなパターンを考えていきたい。

(3) 相談支援部会

・今年度の相談体制の変更に伴いメンバーも増え、3グループに分けた運営をしてきた。「顔の見える関係」「スキルアップ」をしながら運営しているなかでさまざまな地域の課題が挙げられた(資料3-3)。グループリーダー会議をして進捗を確認しながら進めてきた。挙げられた課題を分類し資料3-1の4テーマにまとめ次年度はテーマごとに取り組みを進めたい。本会の委員への部会参加など協力を呼び掛けたい。

<質問・意見>

Q 部会では目の前の問題に対する手立てを求めるようなことが多かった。協議会本会から部会に課題を投げかけることなど、協議会本会の役割を明確にし部会とともに考えていくことが大切である。

A 挙げられた課題をすべて取り上げるのは理想だが、テーマを絞りながら本会委員からも意見を出してもらいながらよりよい相談支援部会としたい。

・実際に相談支援部会に参加して課題を共有できれば協力していきたいと思う。

・本会の委員に呼びかけがあった際はぜひ協力していただきたい。

4 議題

(1) 次年度以降の本会の開催方法等について<資料6>

区の会議体の中で区民等から意見聴く、情報共有・交換するものは「懇談会」「連絡会」に改めることとしたが、本会議体は名称も法定のもので26年度以降も名称変更はしない予定。(障害者福祉推進協議会は「障害者福祉推進懇談会」に改める)開催回数は今年度も4回を予定していたが、期の変更など事務局での対応に時間がかかったこともあり、3回の実施であった。次年度は4回開催で準備していきたい。

協議会の公開性の確保については傍聴の希望も出ており、各委員からのご意見を伺いたい。

<意見交換>

・公開性を高める事で良い効果もあると思うので傍聴を認めることは良いと思う。

・区が主催する会議体については基本的に「公開」であり、もたらず効果もあると考える。討議の内容等を知ってもらうことで活性化につながると考える。

・シンポジウムのように「自立支援協議会は何をやっているのか」を公開することで区民周知が図れると思う。

・相談支援の部会員からも「参加してみて初めてわかった」という声もある。自分たちのやっていることの意義を知ってもらう上でも情報発信は大切だと思う。

・傍聴者からの感想等を聴く仕組みもあれば良いのではないかと。傍聴は各部会も含まれるのか。

・傍聴者からの感想等の聴く仕組みは事務局で考えていく。傍聴はまずは本会からと考えている。

・傍聴は大賛成である。自立支援協議会のことオプザーバーとして参加して初めてわかった。

・議員と言う立場の人に聴いてもらうのも一考かと思う。学生に各自治体の協議会を調べさせても公開情報がない自治体もある。公開性の確保するための準備も大切になる。部会は事例検討などもするので個人情報の取り扱いなどルール化が必要となる。

・次年度4回開催は障害福祉計画策定のスケジュールとの関係だと察する。公開を早くした方がよいと思う。

・自立支援協議会の議論を障害福祉計画に生かすためにも年4回の開催を想定している。議員の傍聴については聴

いていただく機会があれば良いと思う。

(2) 専門部会の今後のあり方について<資料7>

地域移行支援は相談支援事業の個別給付事業となったこともあり、地域移行促進部会で今後扱っていくテーマが課題となってくる。第4期の後期である26年度に地域移行促進部会のあり方を検討していきたい。

・27年度にスタートできるよう早い時期に方向性を出せると良いと思っている。

<意見交換>

- ・相談支援部会で論議して出された課題からは、差別解消法や合理的配慮など権利擁護に関するものが各方面で課題となってくるので専門部会では「障害者権利擁護の環境作り」という観点もあるのではないかと。
- ・差別解消法については、現在区の中での取り組み状況はどうなっているのか。学校現場としては就労支援や学齢期の社会資源不足も大きな課題である。
- ・差別解消法については区としてもこれからの研究課題である。
- ・差別解消法は国での検討結果が出るところと聞いている。障害福祉計画へのつながりも含め、幅広く専門部会のテーマを探せればよい。
- ・本会や部会で話し合ったことで区として一歩でも二歩でも前に進めるようにしたい。
- ・協議会での論議が障害者政策に生き、政策を現場で生かしそれを区がさらに生かすという協議会との信頼関係が大切であると思う。
- ・資料7にもある「高齢期の問題」で65歳到達の障害者について介護保険優先となっているが、協議会の場で、安心して暮らしていくためにどうするかという議論ができると良いと思う。
- ・雇用支援ネットワーク会議など既存の会議体を協議会と上手くリンクさせる方法もあるのでは。学齢期のニーズとサービス供給量を見ていくことについてサービス利用計画を作る過程課題が出せればより良い。
- ・雇用支援ネットワーク会議では現場の生の声が出ている。協議会で就労についてもっと取り組んでもよいのではないかと。合理的配慮は就労先の期業務含めた環境作りが大事であると考えます。
- ・成年後見や権利擁護はテーマとして挙がると良いと思う。部会で取り上げるのであれば協力したいし、専門部会として扱うのならば区民に向けた発信や施策への反映など「成果物」が出せればよい。
- ・自分はピアとして同じ仲間の視点を協議会で示してきている。若い世代のピアたちの視点をもっと知ることができるとありがたい。
- ・地域移行促進部会メンバーに相談支援事業者がいない現状。地域移行・地域定着を進めていくために部会同士での協力のあり方も論議するテーマの一つだと思う。
- ・この前「アビリンピック」(技能コンテスト)の喫茶サービス部門に参加して一生懸命頑張った。来年は受賞を目指して頑張りたい。
- ・シンポジウムなども含め本人の声をリアルに感じていけるかが課題だと考える。そういう視点では権利擁護については大きなテーマであると考えます。
- ・専門部会は関係委員にも参加してもらいながら単年度で行うという考え方もあるのでは。障害福祉計画との関係でいえば権利擁護を専門部会化することは良いのではないかと。多くのことが論議できる幅広く自由度の高い協議会になればと思う。
- ・相談支援部会の中で地域定着が大きな課題となっている。相談支援部会と地域移行促進部会とのリンクが希薄であることに改めて気づかされた。専門部会と本会とがリンクする仕組みがとても大切であると思う。
- ・本日出された意見をスタートとして次回も論議をし、委員の合意のもとで専門部会のあり方を話し合っていく

ロセスも共有していきたい。

5 区からの報告事項と質疑

(1) 次年度スケジュールについて <資料 5>

障害者福祉推進協議会（次年度「障害者福祉推進懇談会」）の計画部会に自立支援協議会から意見を挙げるよう委員を推挙する予定も含め、本会を5・8・11・3月の4回開催を想定している。

(2) 事前配布資料に関する質疑

(事務局より資料4の補足説明)

<最後にオブザーバーより>

- ・これまで部会が2つしかないこと、家族の参加がなかったことを不思議に思っていたが、関心の高かった自立支援協議会に参加できて有意義である。各委員がそれぞれの立場でそれぞれの視点で障害者支援を考えていくことの大切さを感じている。

6 その他

- ・次回日程の確認 平成26年5月19日(月)午後2時からとする。

7 閉会

以上